

観覧ニュース

49号

1986. 7



イサドラの「救済」 A・ブールデル作（1916年11月21日メトロポリタン歌劇場公演プログラムより）
Le Salut / Antoine Bourdelle / © by A.D.A.G.P. 1977.

日々これ好日

吾妻寛治

昭和61年は、略称の西暦86年である。年と共に往時を偲ぶよすがとして、年号の逆読みをしている。昭和は16年、西暦は68年となる。昭和16年は遠慮したい世代ゆえ、1968年を回顧する。この年わが国でも大学紛争が全国的になりつゝあり、本務校もその気配濃厚であった。気掛りながら西独のチュウビンゲン大学行を変更もできず、文字通り後髪を引かれる思いで日本を離れた。外貨事情もあったが心に期す所あり、ハバロフスクまでシベリヤ鉄道を利用した。この間のことも話題に事欠かないが、今は省略する。

モスクワからジェット機で2時間ほど飛ぶと、東ベルリンのシェーネフェルト空港に着く。乗機は東独のものであったが、着陸前のアナウンスでスチュワーデスが結びとした一言は耳に残っている。「こゝはかつて、ヒトラーの飛行場であった」。

入国手続きを終えた空港待合室で声を掛けられ振り向くと、横浜・ナホトカ間の船中で知り合ったゲッティング大の女子学生である。仙台の七夕祭を褒めそやしていたので、その後も折あれば言葉を交していた。彼女は人目を忍ぶように寄って来て、ドイツ人だけが何故か足止めされていると告げ、離れて行った。

東西に分割されたベルリンの特殊事情のゆえであろう位に考え、係員に促されるまゝ西ベルリン行のマイクロバスに乗った。13名

の乗客のうち日本人は私だけなので、相客を避けて最後部に坐った。すると私を追うように1人の外人が隣に坐り、達者なドイツ語でトルコ人と名乗って話し掛けて来た。私以外は西欧人なので、中年のこのトルコ人は私を話し相手に選んだらしい。彼はいわゆるガスト・アルバイターとして、次のオリンピックを控えたミュンヘンの地下鉄工事に行くという。雑談を交している、突然前方が騒がしくなった。何番目かの検問所であり、三百メートルごとに停車してる感じであった。その都度マンドリン銃を構えた2人組の東独兵が乗り込んで、乗客全員のパスポートを検閲する。その執拗さには他の乗客同様に私も辟易していたが、それに耐えかねるように抗議の声が湧きあがったのである。

「ツー・フィル・コントロール、ツー・ベニヒ・フライハイト！」〔検閲ばかりで、自由が無いぞ〕。

最前列に陣取る女性1名を含むフランスの7人組が、高らかに唱和して連呼した。彼等は検閲の度に、なかなかのドイツ語で悪態をついていた。外国語も喧嘩と口説きができればと言うほどであるから、彼等のやりとりの詳細は理解しかねた。が東独兵達が上司の命であるからと、フランス人達に下車を求めていることは分った。拒否を続けるフランス人グループに対し、倍に増員された兵士達が銃の引金に指を掛けて下車を強要している。この險惡な事態に、血相を変え脱出せんと窓をあける乗客もいた。窓もあかない最後部の席ではどう仕様もないし流れ弾にでもと考えると、若き日の海戦以来の戦慄を覚えて思わずポケット・ウィスキーを取り出した。ハバロフスクまで同行した横浜の幼稚園経営者が、別れ際に下さったものである。トルコ人にもすゝめると、この場合それ所ではないと頭を大

振りした。瓶を傾ける私を呆れ顔で見据え、さすがは全世界を相手に最後まで頑張った国の人だと眼を丸くした。そして、「原爆に勝てる国民は、地球上にはありません」と付言した。

さしもの騒動も半時間ほどでけりが付き、全員学生らしいフランス人グループも無事に西ベルリン入りした。わが終戦記念日の、前日のことである。ソ連軍のチェコ侵入を知ったのは1週間後、アウクスブルクのホテルであった。朝食の折ボーイが新聞を持参して、興奮しながら教えてくれた。その第一面には、ソ連の戦車砲の前に胸をはだけて立ち塞がり「撃て！」と絶叫するチェコ青年が大写され

ていた。その新聞を、私は今も保存している。この時になりゲッティングの女子大生のこと、マイクロバスでのことが納得できた。目的地に向う列車の中でも、人々の話題はチェコ一辺倒であった。途中下車したウルム駅頭では、ソ連大使館への抗議の署名を乞われた。きな臭い天地はご免と用務の終り次第帰国すると、日本中が紛争の渦中にあった。物心ついてから大は国家間、小は身の争い事に呪われ続けた身も、大学紛争の終焉と共に安穩である。日々これ好日であり、我流では、みたみわれ、生けるしるしありという事になる。

(独語)

新書コーナーから

この夏休みに、海へ山へ、見知らぬ町へ、あるいは故郷へと様々な旅の計画が皆さんの間で練られている事と思います。そこで、当閲覧ニュースでは、車中で手軽に読めて荷物にならない— そんな旅行中の読書に適した本を何冊か新書のコーナーから pick-up して皆さんにお知らせしようと思います。

森 嶋 通 夫
イギリスと日本 岩波 29

猿 谷 要
アメリカ南部の旅 岩波 78

藤 野 幸 生
大英博物館 岩波 937

松 枝 張
エチオピア絵日記 岩波 974

子 安 美知子
ミュンヘンの小学生 中公 416

高 坂 知 英
ひとり旅の知恵 中公 501

黒 岩 徹
豊かなイギリス人 中公 719

子 安 文
私のミュンヘン日記 中公 797

山 本 偕
ひとり旅の風景 現代 605

宮 脇 俊 三
時刻表ひとり旅 現代 620

種 村 直 樹
終着駅の旅 現代 636

本 城 靖 久
海外ひとり旅 現代 752

※ 書名のあとに新書名とナンバーが記入してあります。御参考下さい。

図書館の在り方・ウィーン大学図書館の場合

手 塚 甫

図書館、と言われて、我々がまず頭に浮ぶのは、国会図書館や諸大学附属の図書館であろうか。従って、図書館の在り方と言うと、これらの図書館の在り様を自明の前提としてその内部の機能のよしあしを論ずるのが普通なのであろう。が、そのような日本の図書館の在り方が、果して、自明のことなのであろうか。

ここで、オーストリアのウィーン大学の図書館を紹介してみよう。オーストリアと言えば、ヨーロッパでも小国、最近「経済大国」と鼻息も荒い日本から見ると、取るに足らぬ存在、何をわざわざと思われるかも知れない。確かに、近年、とみに進歩の著しい諸機器の導入による図書館機能の向上と言う点から見ると、日本の方が見るべきものがあると、僕も思う。ここで、ウィーン図書館を見ようと言うのは、だから、それとは別のことだ。

ウィーン大学の図書館をはじめて案内してくれた日本学研究科の助手は、カードの探し方、本の借出し方を説明しながら、この図書館を利用する上で、大学教授と学生との間に一つだけ差があるが、それが何であるか分るかと僕に聞いて来た。彼は、東大に二年留学したことがあるので、当然、日本の大学図書館を頭において、この質問をしたに相違ない。自分の卒業した大学図書館のあり方を思い出しながら答えを探していると、コートを着たまゝ図書館の中に入れるかどうかだ、という返事が返って来た。つまり、教授はコー

トを着たまゝ図書館の中に入れるが、学生は脱いでいかなければならない。こゝではそれ以外は、教授と学生の間に差がないというのである。これには驚いた。因に、僕が卒業した大学の図書館では、教授と学生の間に大きな相違があるのは言うに及ばず、学生の間にもいろいろ区別が設けられている。学部の学生が入れるのは閲覧室まで、本を借出すのも、あの国会図書館の一般図書貸出し方式である。大学院生になると書庫に入れるようになるが、ここにも差が設けられていて、修士課程の者は書庫に入れるだけで、本を外に持出すことは出来ない。これに対し、博士課程になると、月十冊まで借り出せる等々。勿論、図書館を利用出来るのは、この大学の直接の関係者に限られ、卒業してしまうと、個人的伝手などを頼り、改めて認可を受けなければ、抑々、図書館の中に入ることも出来なくなるのだ。と、このような在り方に慣れた者から見ると、ウィーン大学図書館のあり方は、まさにショックであつた。しかし実際に利用して、更に驚いた。教授が月に十冊借り出せるなら、学生も同じ数だけ借り出せると言うだけではない。同じことが、ウィーン大学に籍を置かない者にも認められているのである。つまり、ウィーン大学図書館に必要な本があり、利用したいと思う者なら、誰でも同じ条件でこの図書館を利用できるのである。しかも、それは、今日、ウィーンに着いたばかりの外国人にも認められていることなのだ。尤も、外国人の場合は、当面の居所を証明する書類と、保証金として

約一万円が必要だが、このお金は、帰る時には勿論返してくれる。なにしろ、あちらは外国が地続きだから、借り出した本を自国まで持ち帰るのも容易なので、それを防ぐためのものだと聞いた。

一般に、あちらでは本代が高い。紙、装丁など立派だが、学生の身には、必要な本を全て購入するということは、まず不可能である。それに、むこうの学生は、社会制度の違いにもよるが、親から十分な仕送りを受けている者は、まず居ない。親に金がないからではなく、大学生にもなったら、^{*}自立して、親の助けを出来るだけ受けずにやる、という考え方から来ていることではあるが、殆んどが、奨学金とか、夏休み働いて貯めたお金をなんとか遣り繰りして大学に通っている。その点からも、図書館がこのように利用できることは、学生にとって本当に有難い。しかも、この図書館は、午前9時から夜は10時まで開いている。冬の夜など、生活費を少しでも切りつめる必要から灯油を買わないでいる身にとって人気のない下宿の寒さはたまらない。そんな時、暖房のよく効いた図書館は文字通り別天地である。天井が高く、広い閲覧室には、机の上に古風な電気スタンドが並び、そのスタンドの先に、これまた古風にフィラメント丸見えの電球が橙色の光の列を作っている。それが日の暮れて行くほどに輝きを増して来る。その灯の下では、似たような立場の学生が熱心に本を読んでいる。厳しい生活環境から来る緊張感で却って集中力が増すのか、そんな時に読む本は、頭によく染み入るのであろう。彼らは只管本に向う。やがて一人立ち、二人立ち、その度に電灯は消えて行く。9時半を過ぎても、まだ医学生も居れば、法律を学ぶもの、哲学書を読む者、そしてオーストリア

人やドイツ人に混って、中国人やナイジェリアから来た学生の顔もある。互いに見知っている者同志、立ち際、軽く声をかけて行く。こんな図書館の在り方を、小国ならではの言う勿れ。家路に就く彼らの顔には、何とも言えぬ充実感が溢れている。学ぶ喜びが、誰からもずっしりと読みとれるのである。

(社会学)

図書館利用 Q & A ①貸出

Q：本を借りるには、どうしたらいいですか？

A：館外貸出は閲覧証を提出し、貸出票とブックカードに必要事項を記入し、返却日を押してもらって下さい。

図書館内で閲覧する時は、閲覧証とブックカードをカウンターに提出するだけです。

Q：何日間借りられますか？

A：貸出期間は一週間です。
洋書は二週間です。

但し、新着雑誌は午後4時から翌午前11時までの一夜貸しをしています。

又、期限内に読み切れなかった場合は、その本と閲覧証を持参すれば延長できます。

Q：何冊借りられますか？

A：貸出冊数の制限はありません。
何冊でも御自由に。持てるだけどうぞ。

Q：借りたい本がないんですが。

A：貸出されているかもしれません。カウンターで確認して下さい。
その場で予約することができます。

☐ 前期試験に備えて

1) 開館延長

7月5日、12日の両土曜日は午後3時まで開館します。(平日は午後6時まで)

2) 一部図書の貸出期限変更について

試験期になると、一部の図書に利用が集中しがちです。このため、予約の多いものに限り、一夜貸し、三日貸し等の措置をとることがあります。

☐ 夏休み中のお知らせ

夏期休暇中の開館、貸出等については下記のとおりとします。

1) 長期貸出

貸出期間 7月17日(木)～9月20日(土)
冊数制限はありません。
(但し、雑誌は対象外です)

2) 開館時間

7月21日(月)～9月13日(土)
平日 午前9時から午後5時まで
土曜日 午前9時から午後1時まで

3) 閉館

8月11日(月)～8月16日(土)

☐ 閲覧証をまだ受けとっていない方へ

図書館を利用する時には、閲覧証が必要です。まだ受け取りに来ていない方は、教養図書館カウンターまでいらして下さい。

☐ 表紙解説

A. プールデル作『イサドラの「救済」』

石多正男

ギリシャ芸術に鼓舞され、「自然に帰れ」と叫んだ女流舞踊家イサドラ・ダンカン(1878～1927)の言葉：

『たぶん、大人の中には魂の言語を忘れてしまった者もいるだろう。しかし子供らにはわかっている。彼らには、ただこれだけ言えばよいのだ。「あなた[○]方[○]の[○]魂[○]で音楽を聞きなさい。さあ、音楽に耳をかたむけてみると、あなた方の内部深くに、内的自我の目覚めを感じませんか——この自我の力であなた方の頭はもちあげられ、腕は高く掲げられ、光に向かつてゆっくりと前進するのですよ。』」
(独語)

『イサドラ・ダンカン 芸術と回想』

シェルドン・チェニー編 小倉重夫訳編
1977年7月発行 富山房
(769.53/D97)

☐ 編集後記

今月より新館長の手塚 甫先生を迎えました。吾妻寛治先生には、長い間教養図書館長としてご尽力いただきました。この場をかりて厚くお礼申し上げます。

今回は新旧館長によるエッセーと、石多先生に表紙解説をお願いしました。

閲覧ニュース 49号

1986.7発行

北里大学教養図書館

発行責任者 手塚 甫

〒228 相模原市北里1-15-1

電話(0427)78-8005